

第3部 若者の意識と生活に関する調査

第1章 調査の概要

1. 調査の目的・対象・方法等

(1) 調査の目的

この調査は、すべての若者が誰ひとり残されず夢と希望を持って成長・活躍していけるよう、日常生活や社会生活の自立と安定を目指した支援の検討にあたって市内の若者の意識と生活実態を把握し、施策検討の参考とするために行いました。

(2) 調査の対象者と抽出方法

調査対象者：川越市在住の18歳から39歳の若者

※抽出日：令和5年11月1日

抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出

(4) 調査方法

〔配布〕 郵送配布

〔回収〕 郵送回収又はインターネット回答

(5) 調査期間

令和5年12月4日（月）から令和6年1月26日（金）まで

2. 回収結果

回収結果は下表のとおりです。

図表 3-1-2-1 有効回答数（上段）及び有効回答率（下段）

区分	配布数	有効回収数	うち郵送回答	うち WEB 回答
若者の意識と生活に関する調査	2,981	660	233	427
		22.1%	35.3%	64.7%

3. 報告書の見方

- ・本報告書では、回答すべき箇所が回答されていないものは「無回答」として扱います。
- ・設問の構成比は、回答者数（該当設問での該当者数）を基数として百分率（％）で示しています。
- ・グラフ上で基数はnで表しています。
- ・比率は全て百分率（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合があります。
- ・複数回答については、回答者数を基数として百分率（％）で示しています、したがって、合計値は100%を超える場合もあります。
- ・複数回答の設問は、図表タイトルの後ろに「（複数回答）」と記してあり、それ以外は単数回答とします。
- ・サンプル数が30未満のものについては参考値として掲載しています。

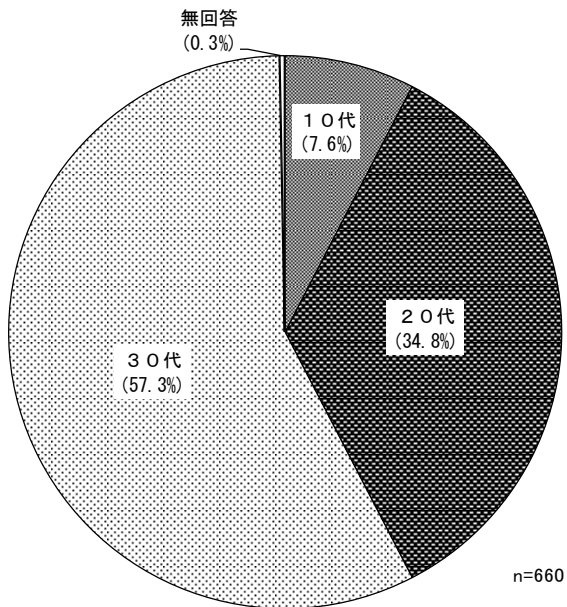
第2章 若者の意識と生活に関する調査の結果

1. 回答者自身について

(1) 年齢

回答者の年齢は「30代」が57.3%と最も高く、次いで「20代」が34.8%、「10代」が7.6%となっています。

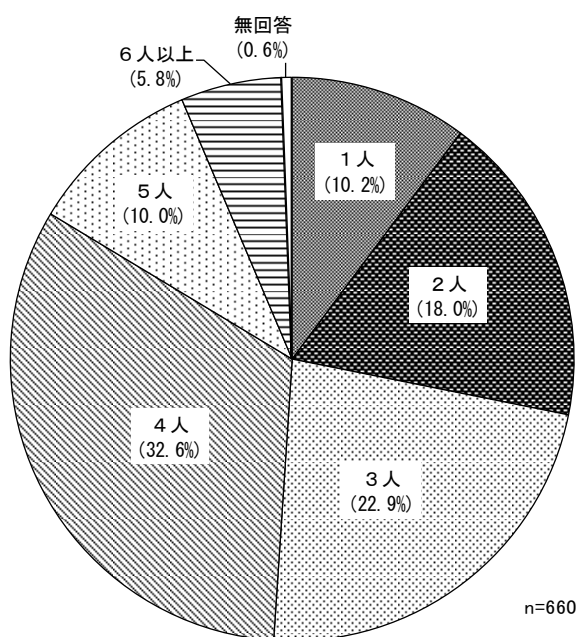
図表 3-2-1-1 年齢



(2) 世帯の人数

回答者の世帯の人数は「4人」が32.6%と最も高く、次いで「3人」が22.9%、「2人」が18.0%となっています。

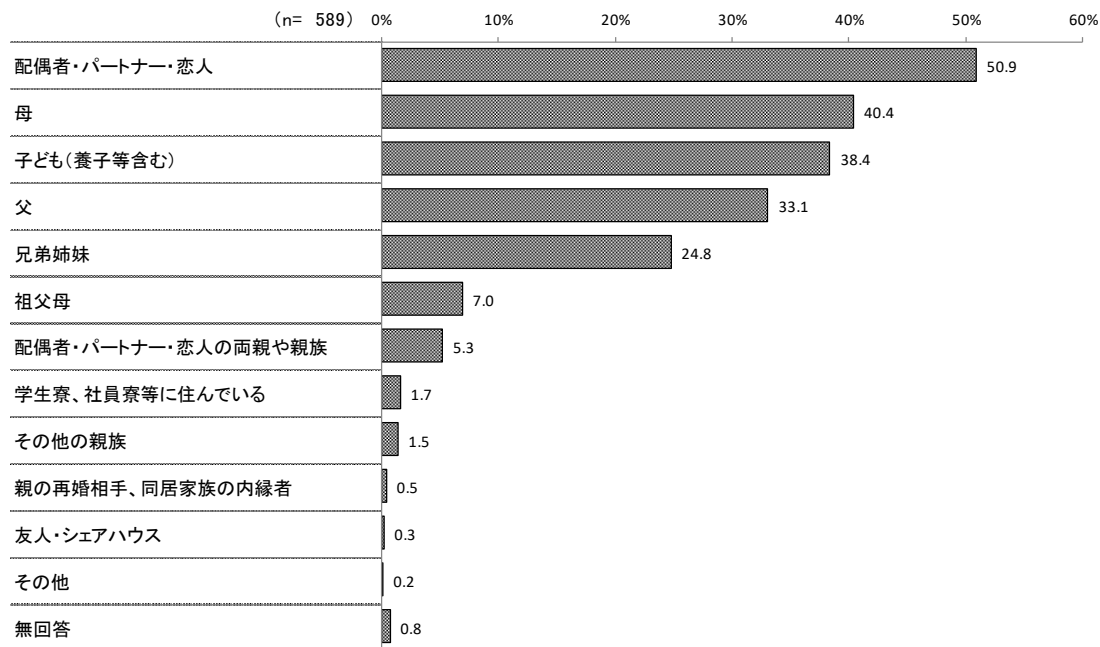
図表 3-2-1-2 世帯の人数



(3) 同居家族

回答者の同居家族を複数回答で聞いたところ、「配偶者・パートナー・恋人」が50.9%と最も高く、次いで「母」が40.4%、「子ども（養子等含む）」が38.4%となっています。

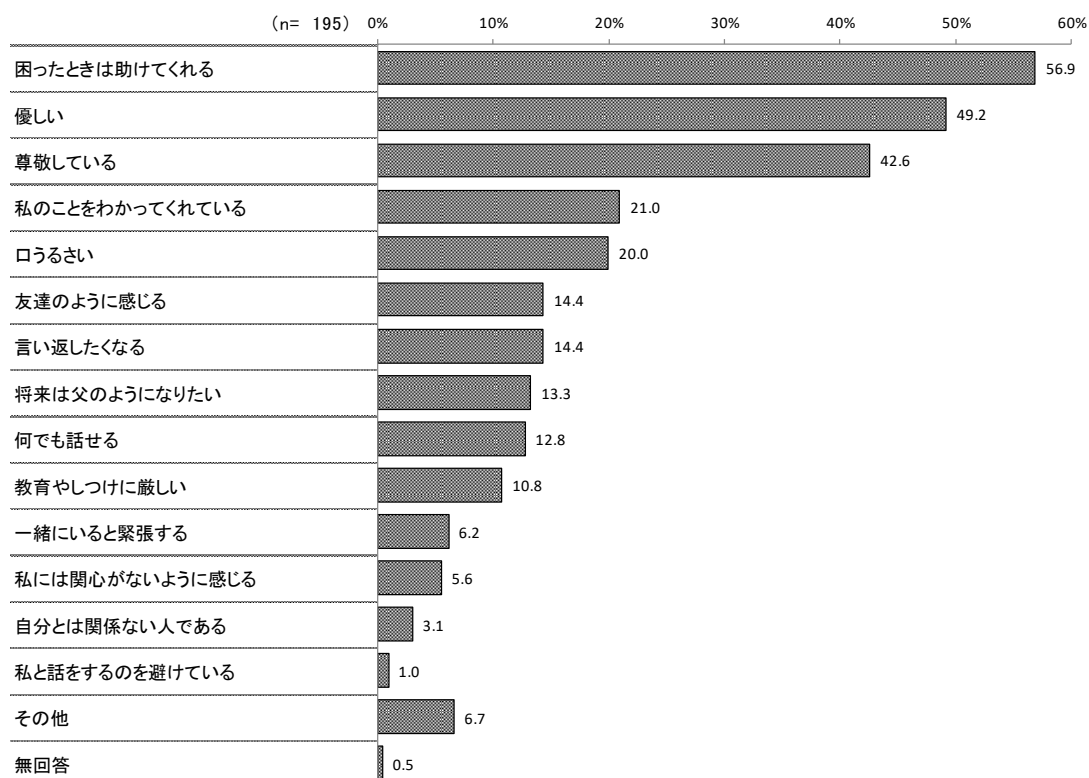
図表 3-2-1-3 同居家族（複数回答）



(4) 父親に感じていること

父親に感じていることを複数回答で聞いたところ、「困ったときは助けてくれる」が56.9%と最も高く、次いで「優しい」が49.2%、「尊敬している」が42.6%となっています。

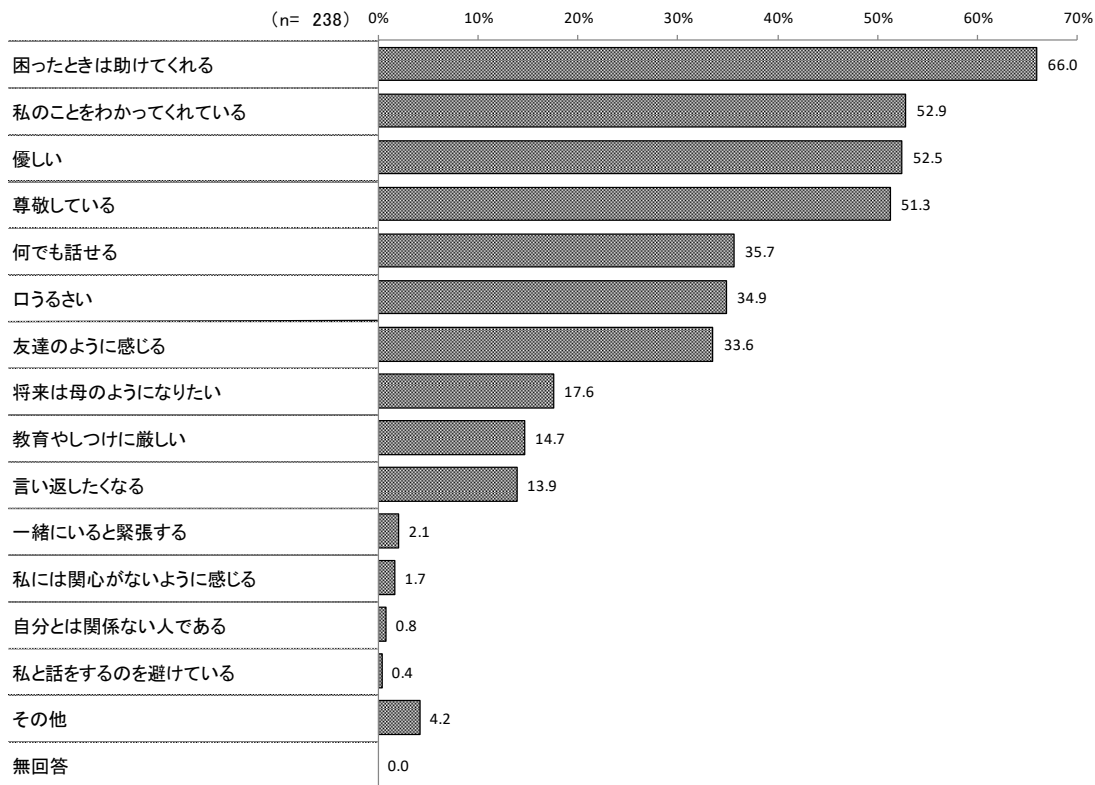
図表 3-2-1-4 父親に感じていること（複数回答）



(5) 母親に感じていること

母親に感じていることを複数回答で聞いたところ、「困ったときは助けてくれる」が66.0%と最も高く、次いで「私のことをわかってくれている」が52.9%、「優しい」が52.5%、「尊敬している」が51.3%となっています。

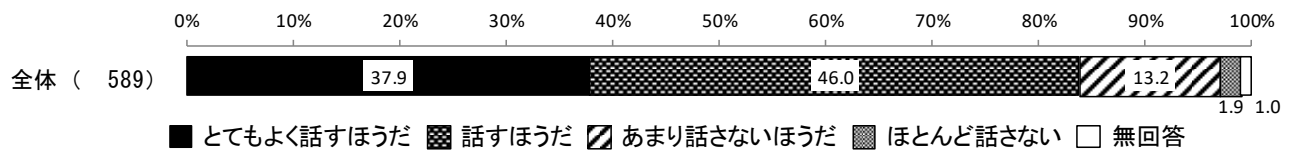
図表 3-2-1-5 母親に感じていること（複数回答）



(6) 家で話す頻度

家で話す頻度は「話すほうだ」が46.0%と最も高く、次いで「とてもよく話すほうだ」が37.9%、「あまり話さないほうだ」が13.2%となっています。

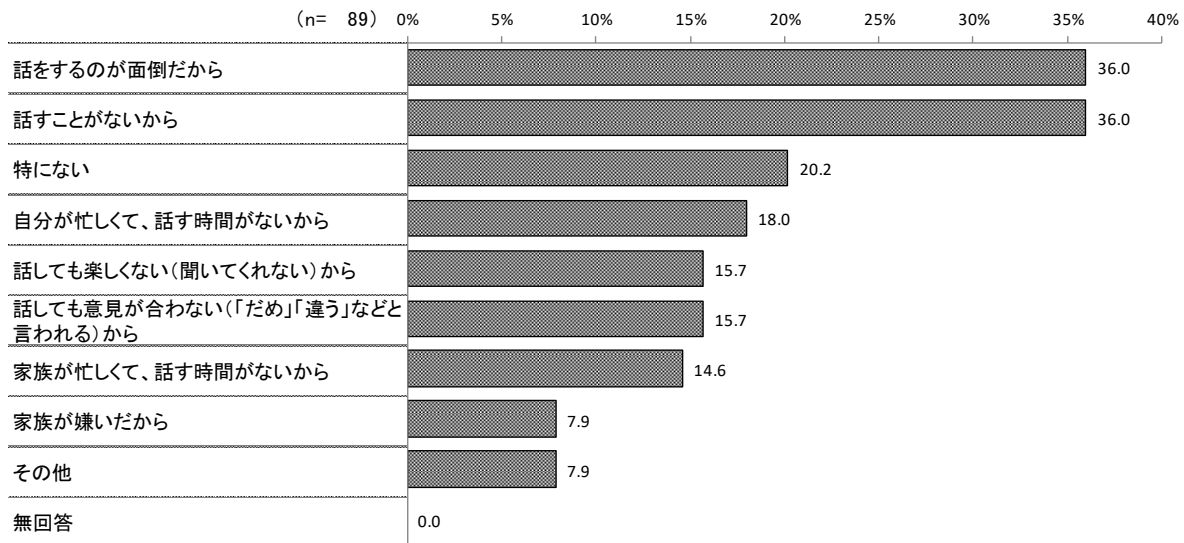
図表 3-2-1-6 家で話す頻度



(7) 家で話さない理由

家で話さない理由を複数回答で聞いたところ、「話をするのが面倒だから」と「話すことがないから」がともに 36.0%と最も高くなっています。

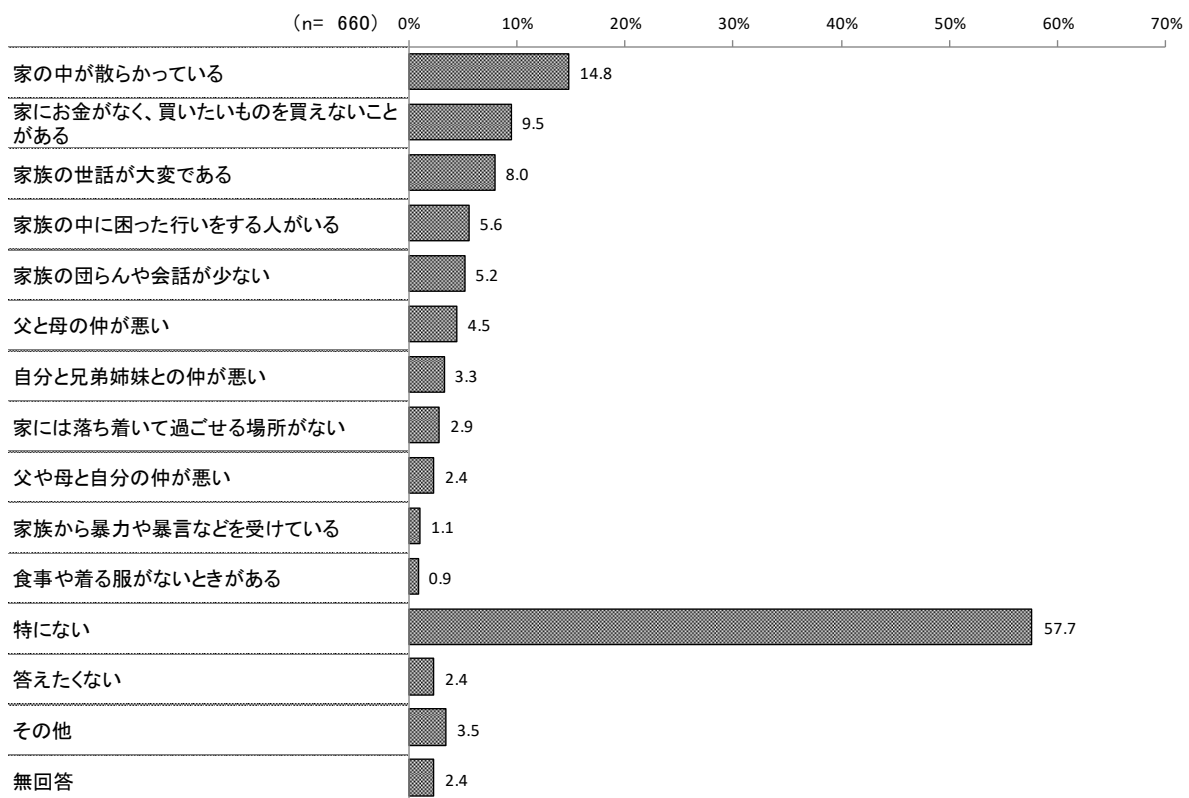
図表 3-2-1-7 家で話さない理由（複数回答）



(8) 家族のことで困っていること、いやなこと

家族のことで困っていること、いやなことを複数回答で聞いたところ、「特にな」が 57.7%と最も高くなっています。困っていることや、いやなことの内容では「家の中が散らかっている」が 14.8%と最も高く、次いで「家にお金がなく、買いたいものを買えないことがある」が 9.5%、「家族の世話が大変である」が 8.0%となっています。

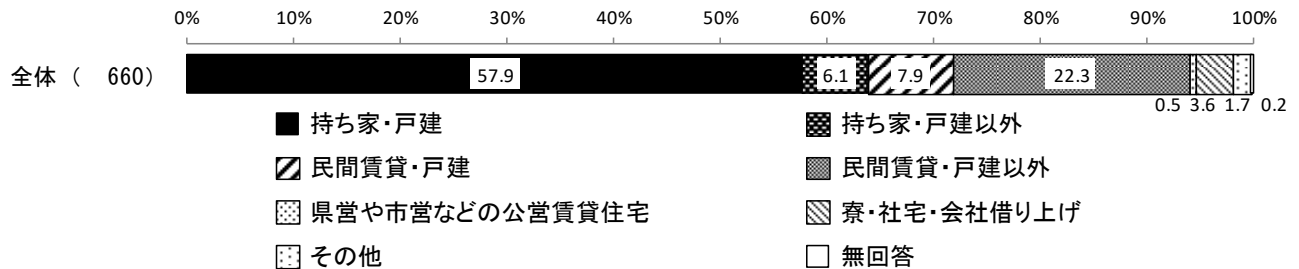
図表 3-2-1-8 家族のことで困っていること、いやなこと（複数回答）



(9) 住居の種類

住居の種類は「持ち家・戸建て」が 57.9%と最も高く、次いで「民間賃貸・戸建て以外」が 22.3%、「民間賃貸・戸建て」が 7.9%となっています。

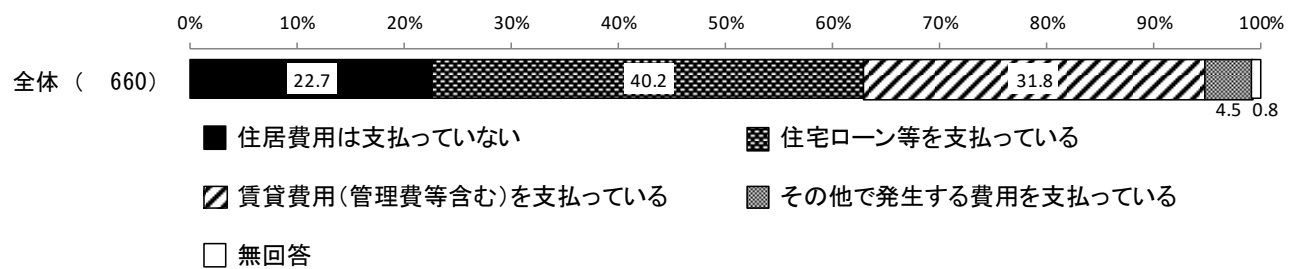
図表 3-2-1-9 住居の種類



(10) 住居費

住居費は「住宅ローン等を支払っている」が 40.2%と最も高く、次いで「賃貸費用（管理費等を含む）を支払っている」が 31.8%、「住居費用は支払っていない」が 22.7%となっています。

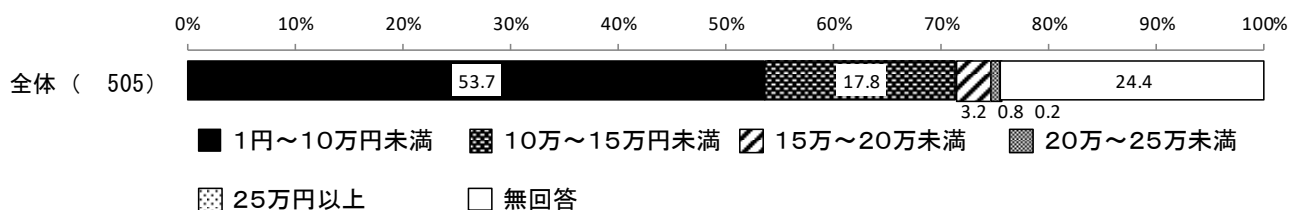
図表 3-2-1-10 住居費



(11) 住居費の月額

住居費の月額は「1 円～10 万円未満」が 53.7%と最も高く、次いで「10 万～15 万円未満」が 17.8%となっています。

図表 3-2-1-11 住居費の月額

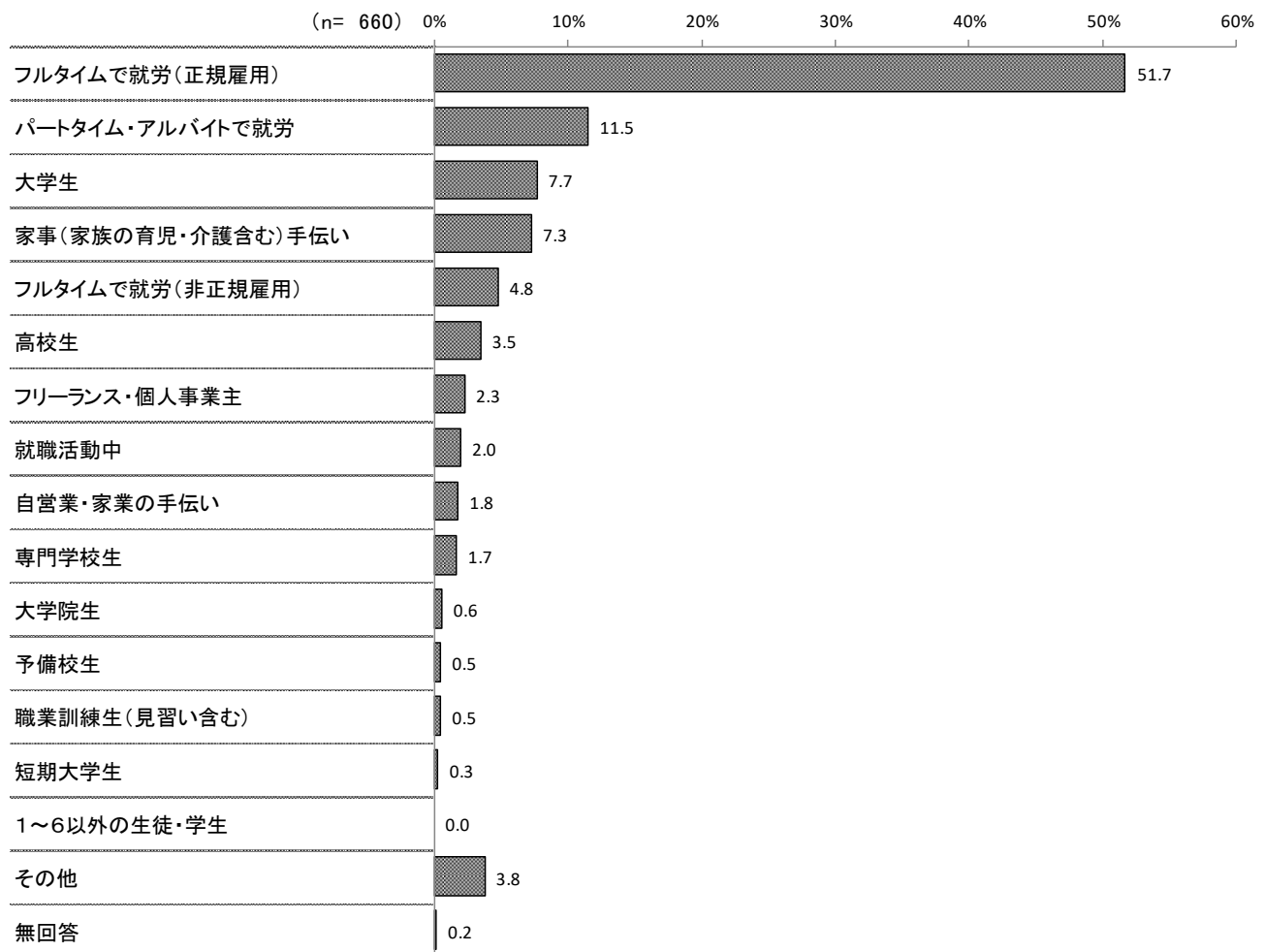


2. 進学状況と就労状況について

(1) 現在の職業

現在の職業は「フルタイムで就労（正規雇用）」が 51.7%と最も高く、次いで「パートタイム・アルバイトで就労」が 11.5%、「大学生」が 7.7%となっています。

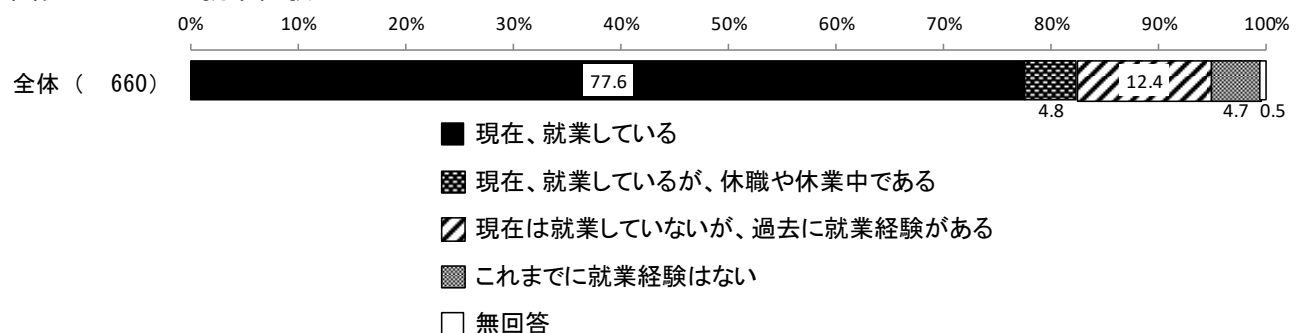
図表 3-2-2-1 現在の職業



(2) 就業経験

就業経験は「現在、就業している」が 77.6%と最も高く、次いで「現在は就業していないが、過去に就業経験がある」が 12.4%となっています。

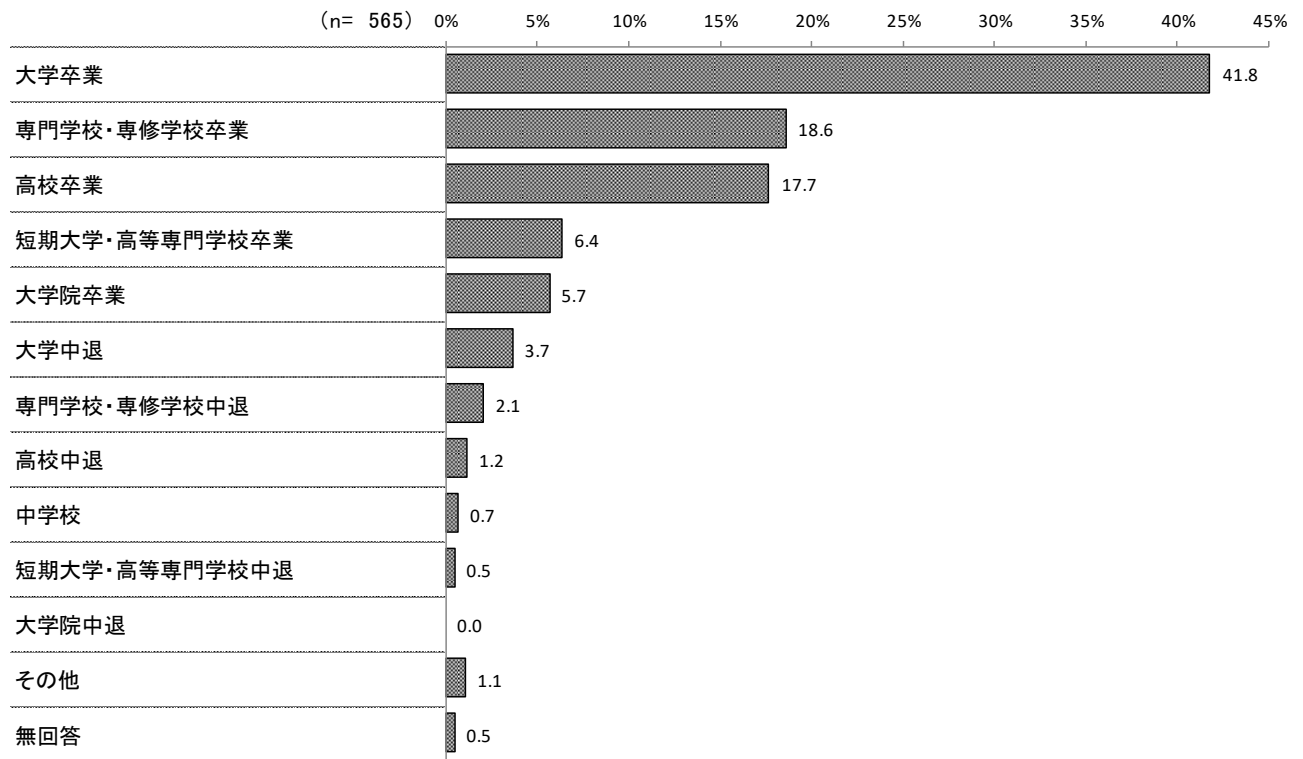
図表 3-2-2-2 就業経験



(3) 最後に在籍した学校等

最後に在籍した学校等は「大学卒業」が41.8%と最も高く、次いで「専門学校・専修学校卒業」が18.6%、「高校卒業」が17.7%となっています。

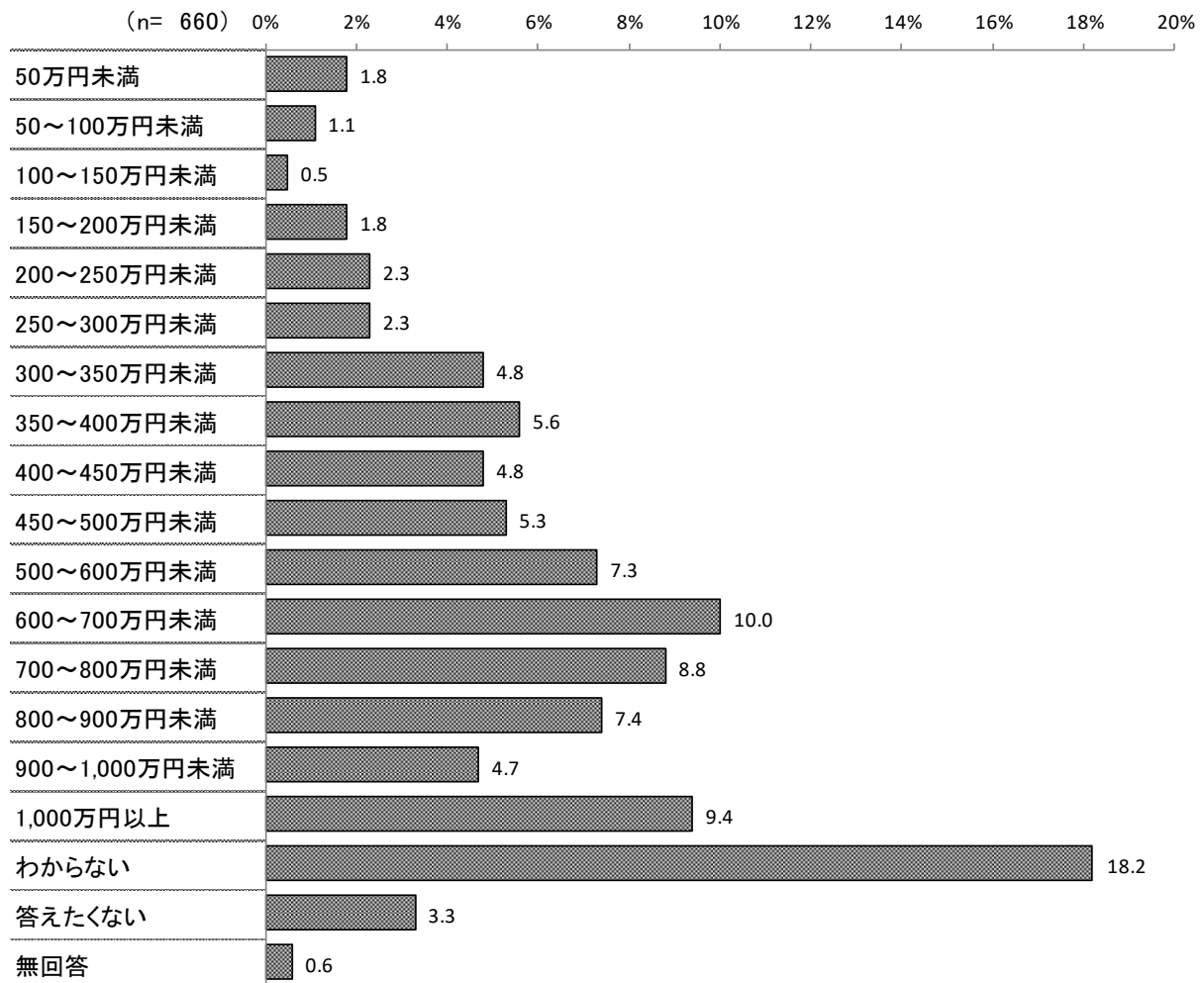
図表 3-2-2-3 最後に在籍した学校等



(4) 世帯の年間収入

世帯の年間収入は「わからない」が18.2%と最も高く、次いで「600～700万円未満」が10.0%、「1,000万円以上」が9.4%となっています。

図表 3-2-2-4 世帯の年間収入

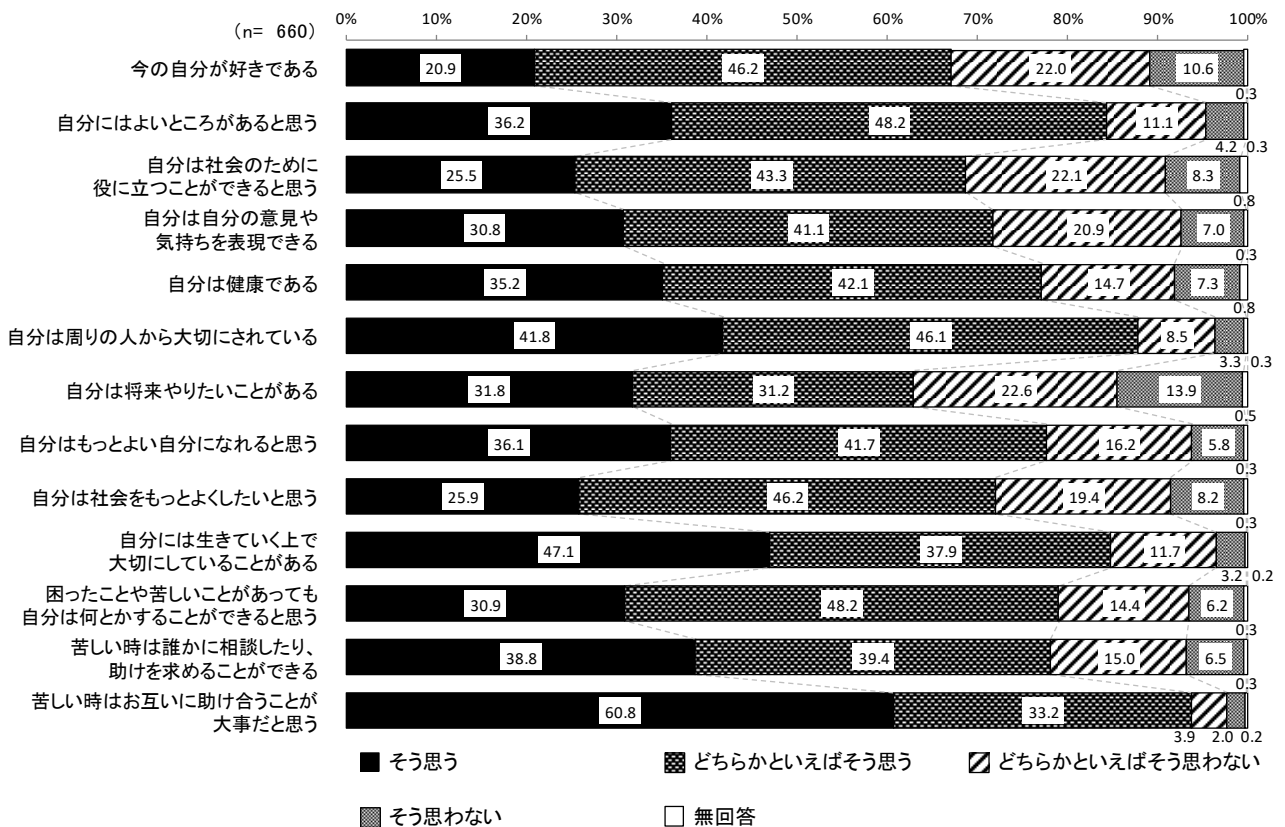


3. 日常的に感じることや悩みについて

(1) 日常的に感じること

日常的に感じることについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』は「苦しい時はお互いに助け合うことが大事だと思う」(94.0%)、「自分は周りの人から大切にされている」(87.9%)、「自分には生きていく上で大切にしていることがある」(85.0%)、「自分にはよいところがあると思う」(84.4%)でいずれも8割を超えて高くなっています。一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『思わない』は「自分は将来やりたいことがある」(36.5%)、「今の自分が好きである」(32.6%)、「自分は社会のために役に立つことができると思う」(30.4%)でいずれも3割を超えて高くなっています。

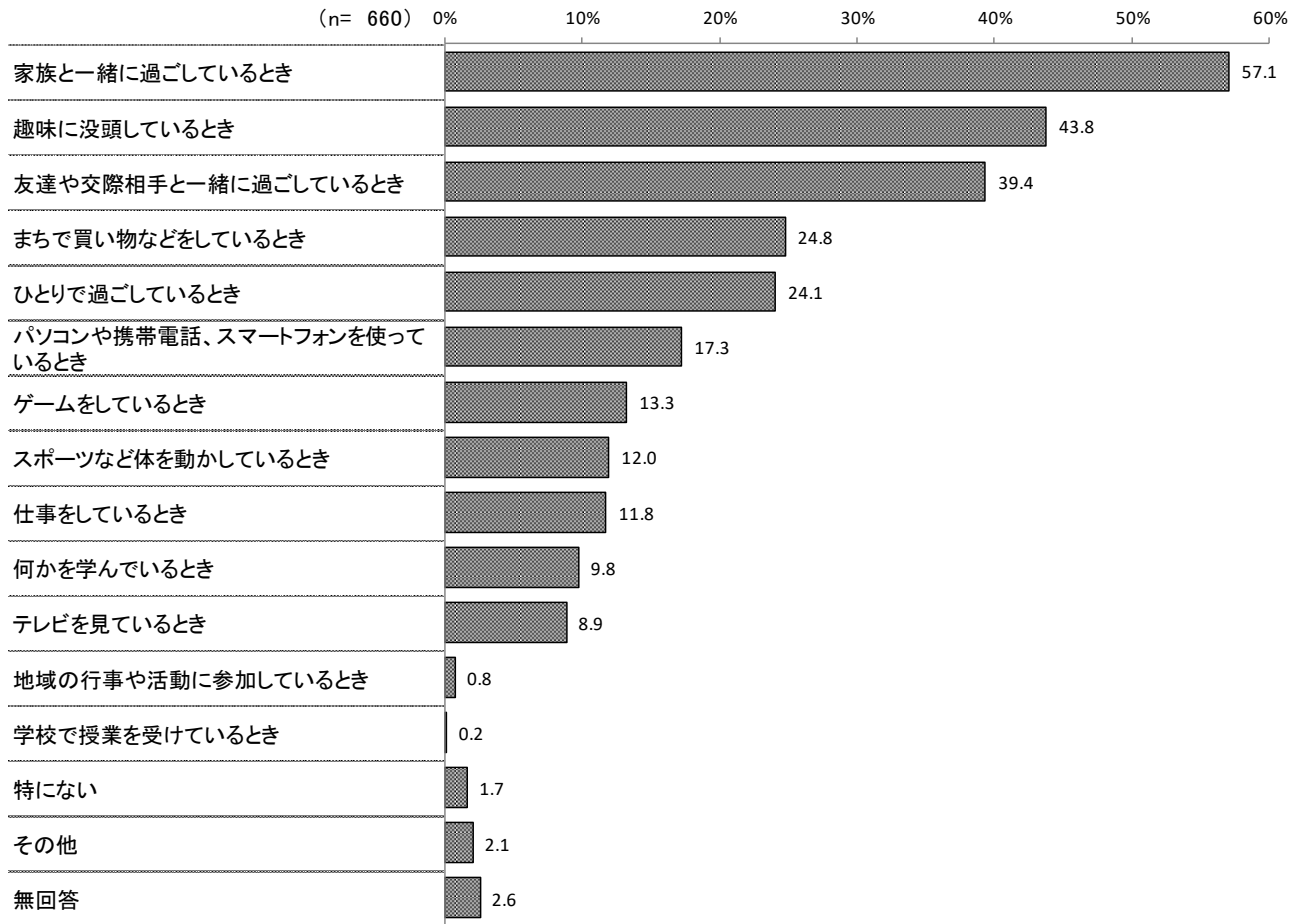
図表 3-2-3-1 日常的に感じること



(2) 普段の生活の中で楽しさを感じる時

普段の生活の中で楽しさを感じる時を複数回答で聞いたところ、「家族と一緒に過ごしているとき」が57.1%と最も高く、次いで「趣味に没頭しているとき」が43.8%、「友だちや交際相手と一緒に過ごしているとき」が39.4%となっています。

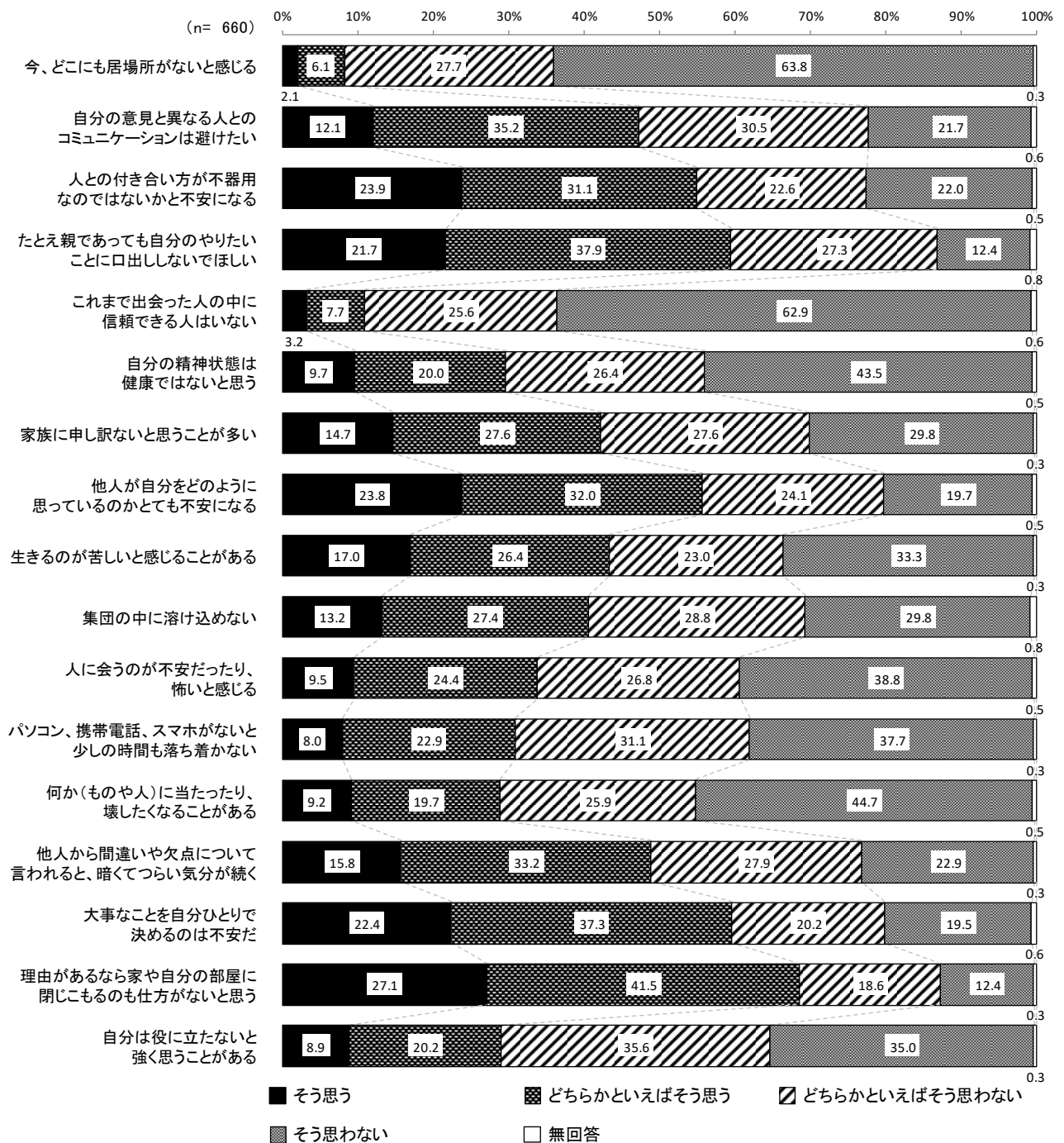
図表 3-2-3-2 普段の生活の中で楽しさを感じる時（複数回答）



(3) 自分自身の考え

自分自身の考えについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』は「理由があるなら家や自分の部屋に閉じこもるのも仕方がないと思う」(68.6%)、「大事なことを自分ひとりで決めるのは不安だ」(59.7%)、「たとえ親であっても自分のやりたいことに口出ししないほしい」(59.6%)、「他人が自分をどのように思っているのかとても不安になる」(55.8%)、「人との付き合い方が不器用なのではないかと不安になる」(55.0%)でいずれも5割を超えて高くなっています。一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『思わない』は「今、どこにも居場所がないと感じる」(91.5%)、「これまで出会った人の中に信頼できる人はいない」(88.5%)でともに8割を超えて高くなっています。

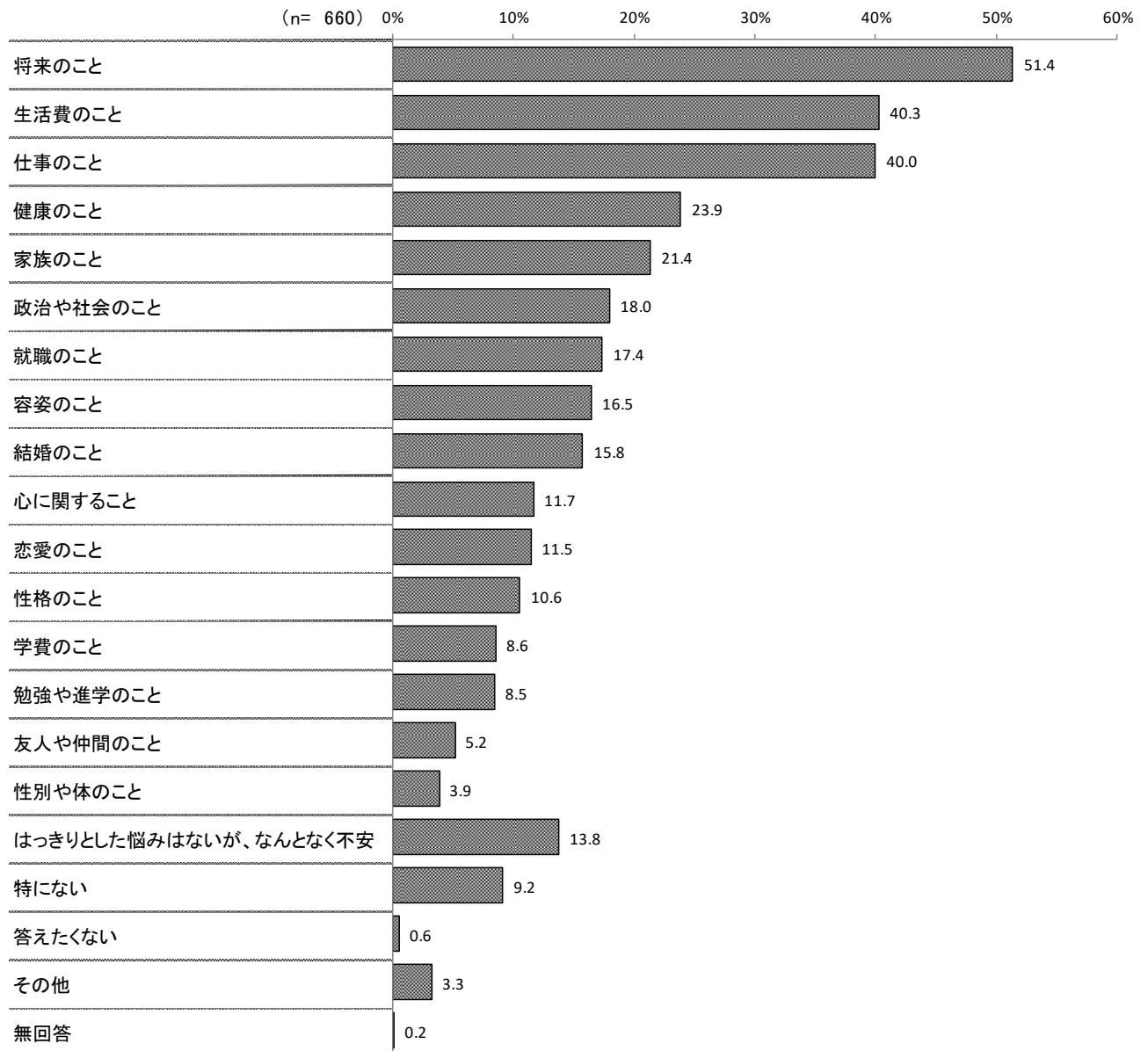
図表 3-2-3-3 自分自身の考え



(4) 現在困っていることや悩んでいること

現在困っていることや悩んでいることを複数回答で聞いたところ、「将来のこと」が 51.4%と最も高く、次いで「生活費のこと」が 40.3%、「仕事のこと」が 40.0%となっています。

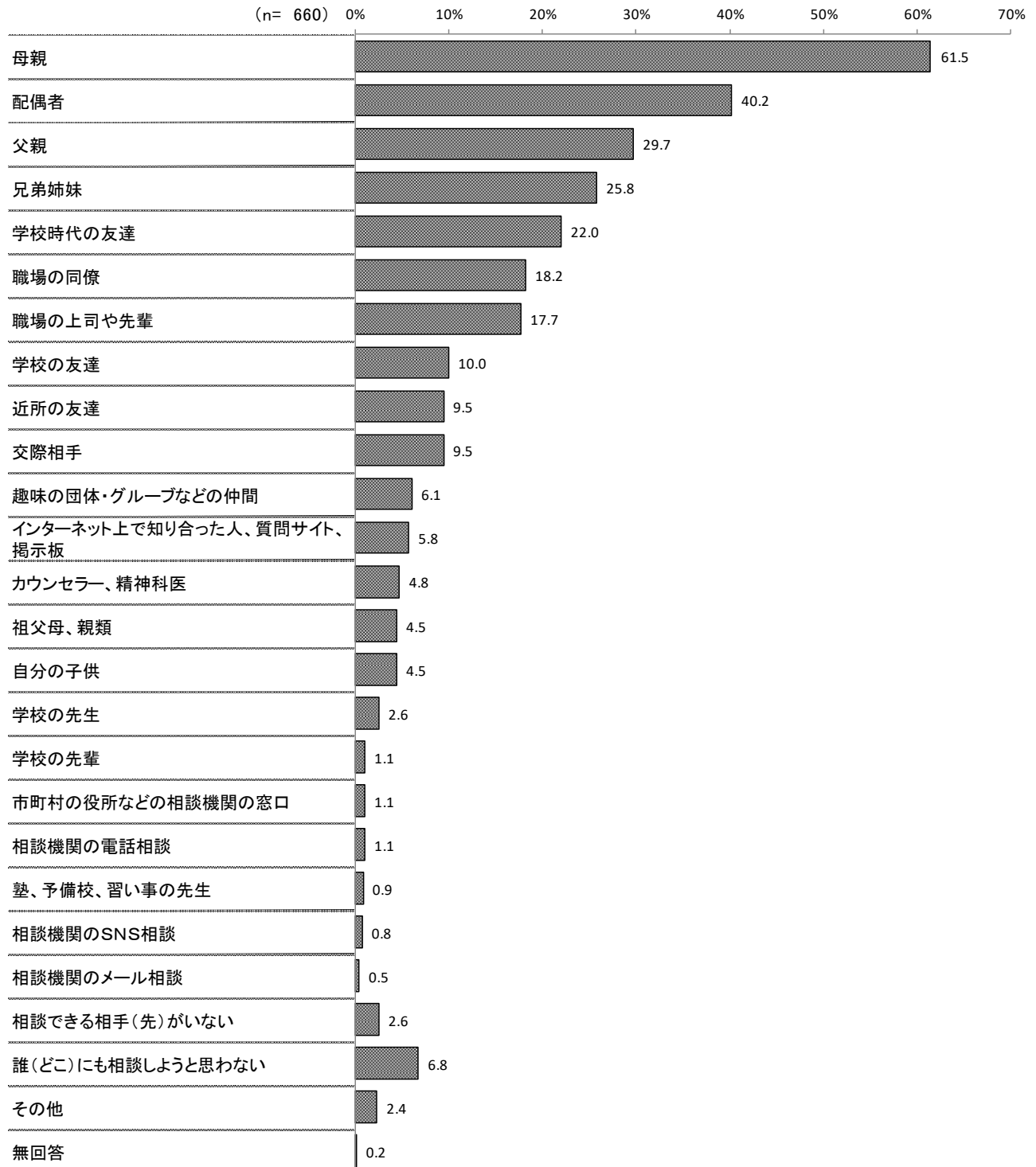
図表 3-2-3-4 現在困っていることや悩んでいること（複数回答）



(5) 困っていることや悩みごとの相談相手

困っていることや悩みごとの相談相手を複数回答で聞いたところ、「母親」が61.5%と最も高く、次いで「配偶者」が40.2%、「父親」が29.7%となっています。

図表 3-2-3-5 困っていることや悩みごとの相談相手（複数回答）

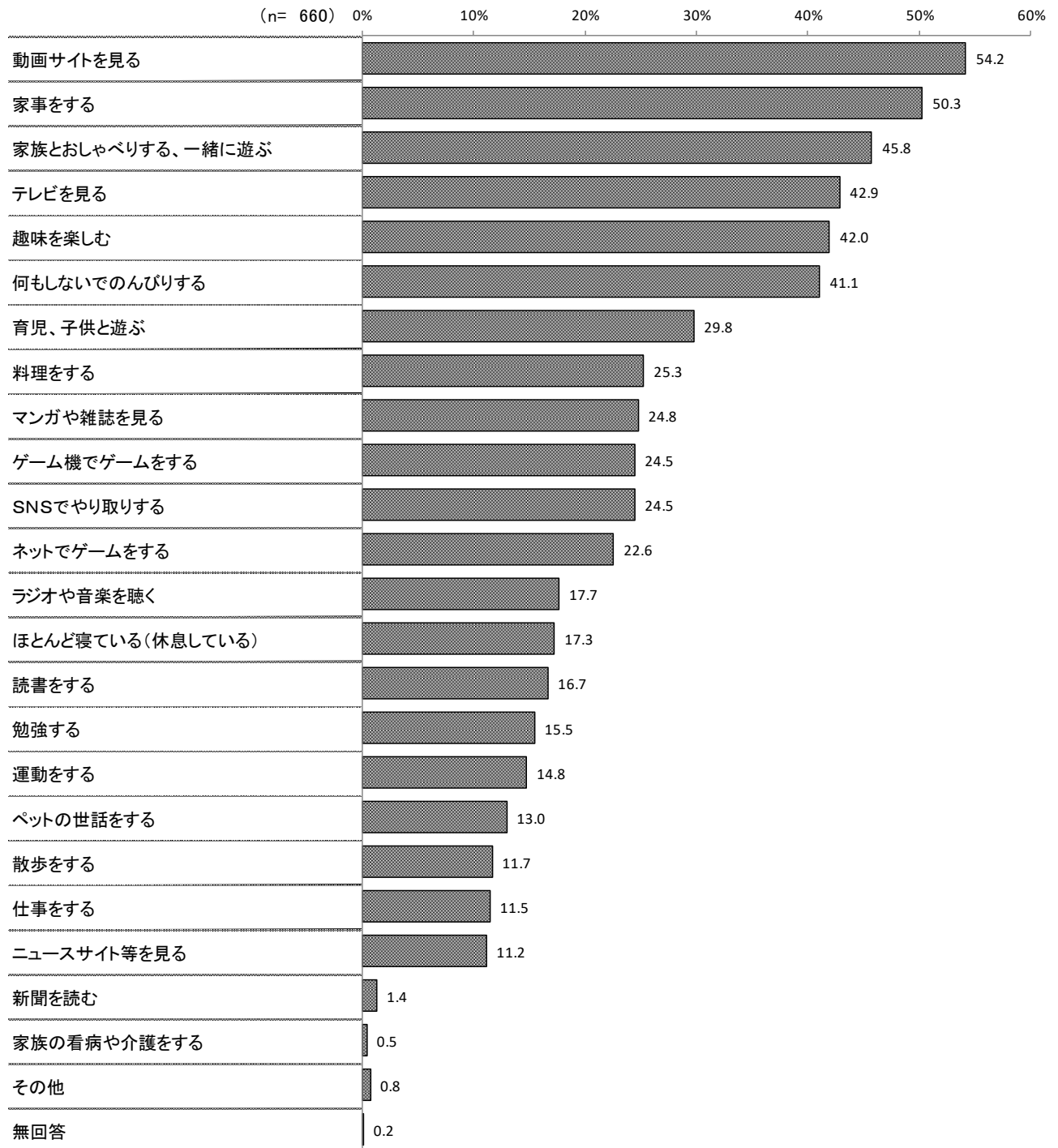


4. 日常生活について

(1) 普段自宅にいるときによくしていること

普段自宅にいるときによくしていることを複数回答で聞いたところ、「動画サイトを見る」が54.2%と最も高く、次いで「家事をする」が50.3%、「家族とおしゃべりする、一緒に遊ぶ」が45.8%となっています。

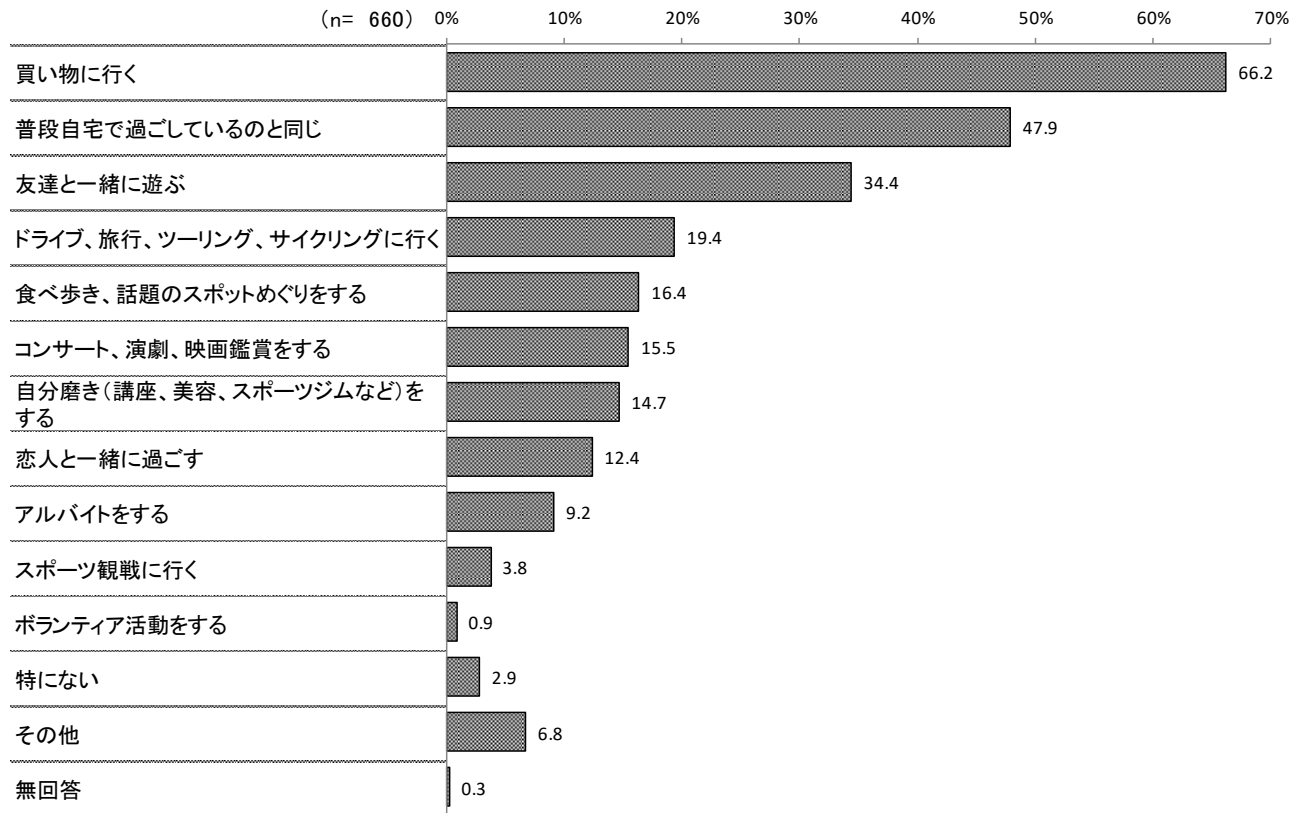
図表 3-2-4-1 普段自宅にいるときによくしていること（複数回答）



(2) 休日の過ごし方

休日の過ごし方を複数回答で聞いたところ、「買い物に行く」が 66.2%と最も高く、次いで「普段自宅で過ごしているのと同じ」が 47.9%、「友だちと一緒に遊ぶ」が 34.4%となっています。

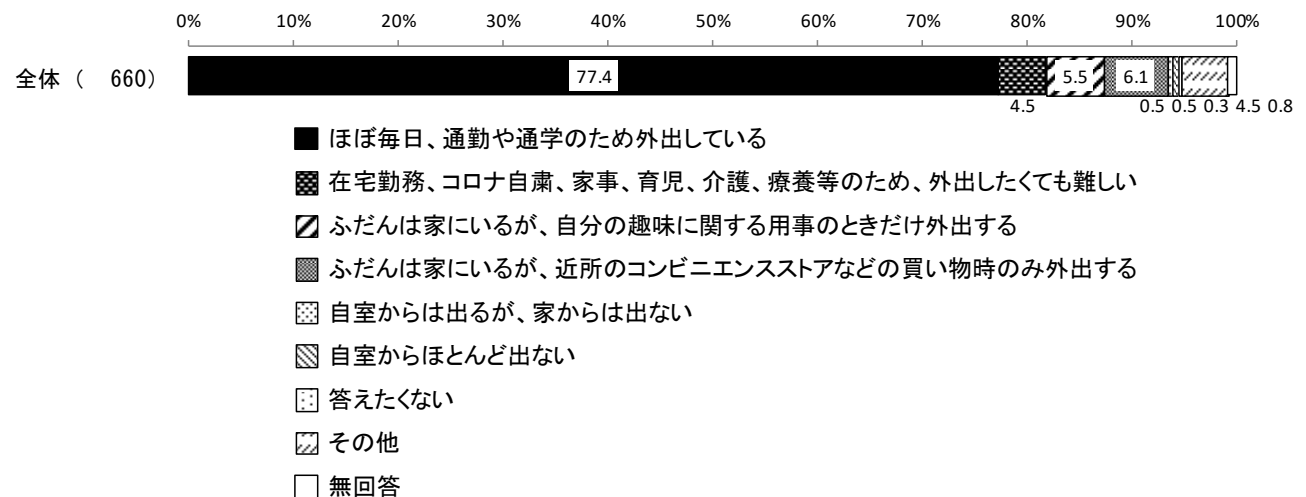
図表 3-2-4-2 休日の過ごし方



(3) 1週間の外出頻度

1週間の外出頻度は「ほぼ毎日、通勤や通学のため外出している」が 77.4%と最も高く、次いで「ふだんは家にいるが、近所のコンビニエンスストアなどの買い物時のみ外出する」が 6.1%、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」が 5.5%となっています。

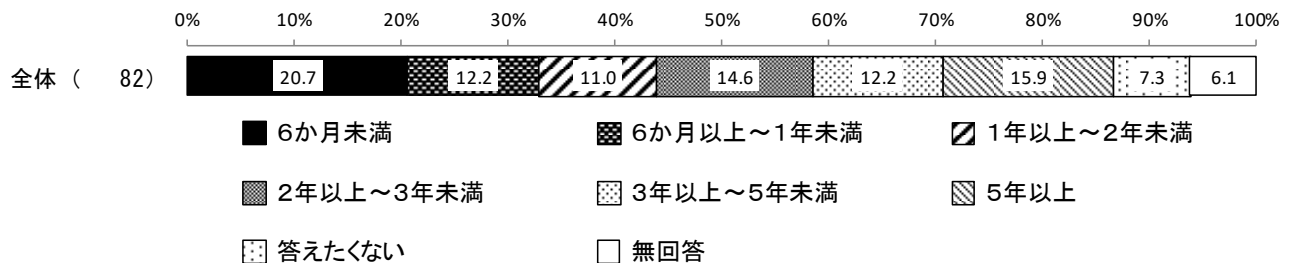
図表 3-2-4-3 1週間の外出頻度



（４）通勤や通学等で外出をしない（理由があって外出ができない方を含まず）状況になってからの期間

現在の状況になってからの期間は「6か月未満」が20.7%と最も高く、次いで「5年以上」が15.9%、「2年以上～3年未満」が14.6%となっています。

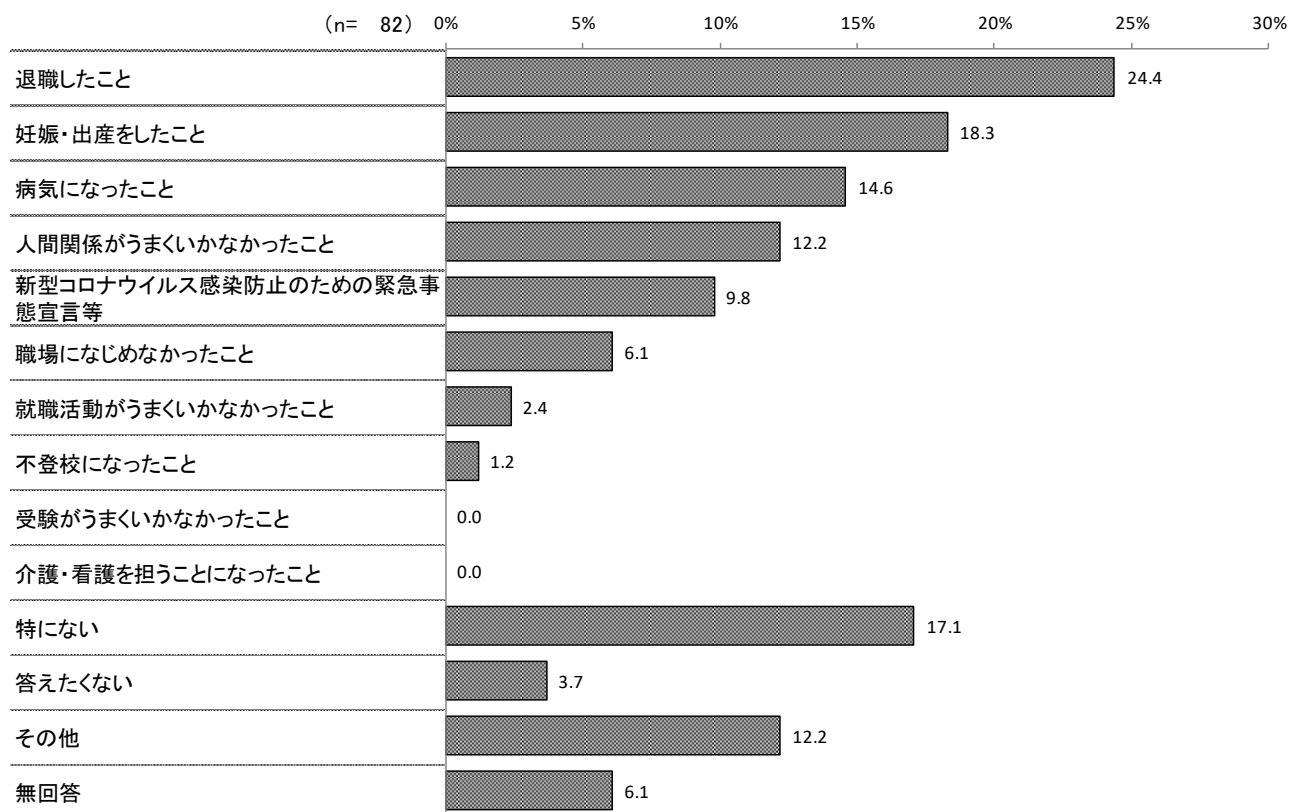
図表 3-2-4-4 現在の状況になってからの期間



（５）通勤や通学等で外出をしない（理由があって外出ができない方を含まず）状況になったきっかけ

通勤や通学等で外出をしない（理由があって外出ができない方を含まず）状況になったきっかけを複数回答で聞いたところ、「退職したこと」が24.4%と最も高く、次いで「妊娠・出産をしたこと」が18.3%、「病気になった事」が14.6%となっています。一方、「特にない」は17.1%となっています。

図表 3-2-4-5 通勤や通学等で外出をしない（理由があって外出ができない方を含まず）状況になったきっかけ（複数回答）

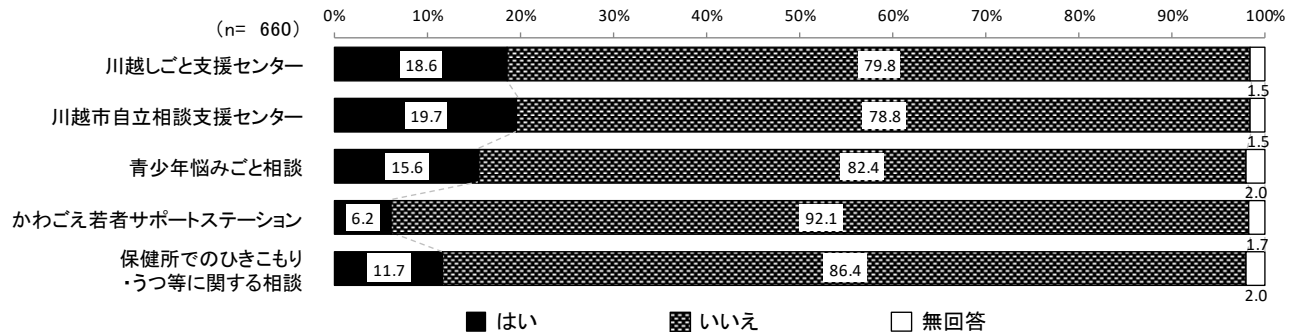


(6) 子ども・若者を対象とした支援機関等の認知度、利用経験、利用希望

①認知度

認知度については、「川越しごと支援センター」が 19.7%と最も高く、次いで「川越しごと支援センター」が 18.6%、「青少年悩みごと相談」が 15.6%となっています。

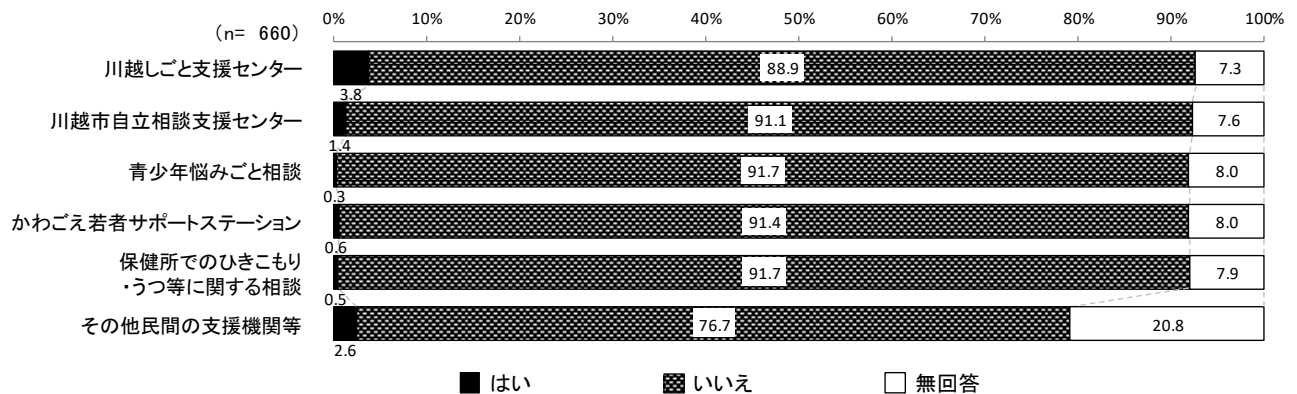
図表 3-2-4-6-1 子ども・若者を対象とした支援機関等の認知度



②利用経験

利用経験については、「川越しごと支援センター」が 3.8%と最も高く、次いで「その他民間の支援機関等」が 2.6%、「川越し自立相談支援センター」が 1.4%となっています。

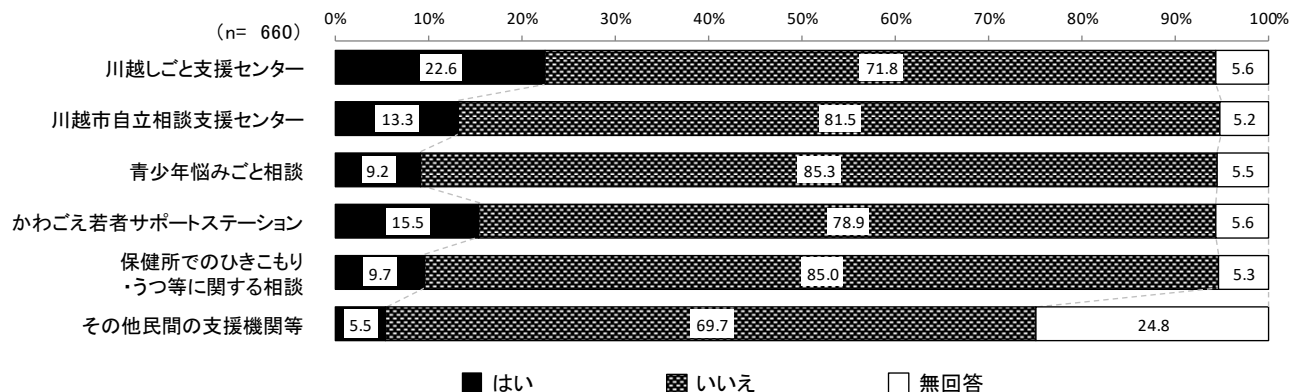
図表 3-2-4-6-2 子ども・若者を対象とした支援機関等の利用経験



③利用希望

利用希望については、「川越しごと支援センター」が 22.6%と最も高く、次いで「かわごえ若者サポートステーション」が 15.5%、「川越し自立相談支援センター」が 13.3%となっています。

図表 3-2-4-6-3 子ども・若者を対象とした支援機関等の利用希望

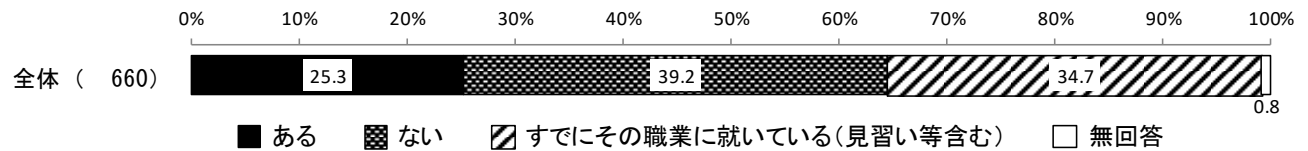


5. 将来のことについて

(1) 将来希望する職業の有無

将来希望する職業の有無は「ある」が 25.3%、「ない」が 39.2%、「すでにその職業に就いている（見習い等含む）」が 34.7%となっています。

図表 3-2-5-1 将来希望する職業の有無



(2) 将来なりたい職業

将来なりたい職業が「ある」と回答した人に、その職業を自由記入形式で聞いたところ、上位5項目は以下の内容となっています。

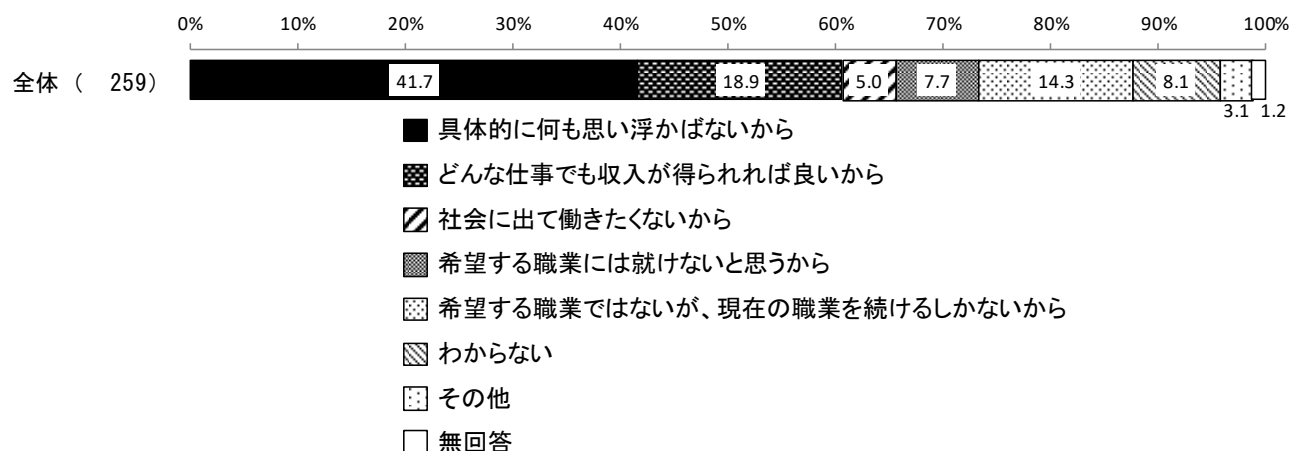
図表 3-2-5-2 将来なりたい職業

1位 看護師	13件
2位 事務職	12件
3位 教員	11件
4位 保育士	5件
4位 動物にかかわる仕事	5件
4位 研究職	5件

(3) 将来なりたい職業がない理由

将来なりたい職業がない理由は「具体的に何も思い浮かばないから」が 41.7%と最も高く、次いで「どんな仕事でも収入が得られれば良いから」が 18.9%、「希望する職業ではないが、現在の職業を続けるしかないから」が 14.3%となっています。

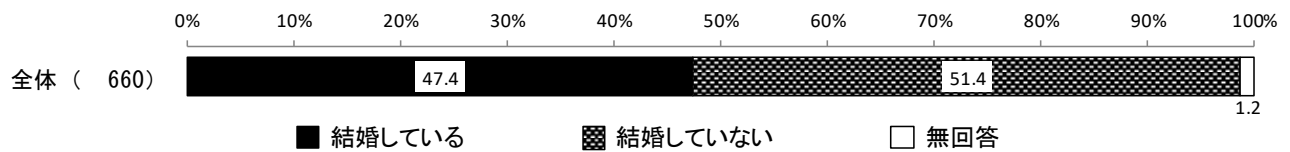
図表 3-2-5-3 将来なりたい職業がない理由



(4) 現在の婚姻状況

現在の婚姻状況は「結婚している」が47.7%、「結婚していない」が51.4%となっています。

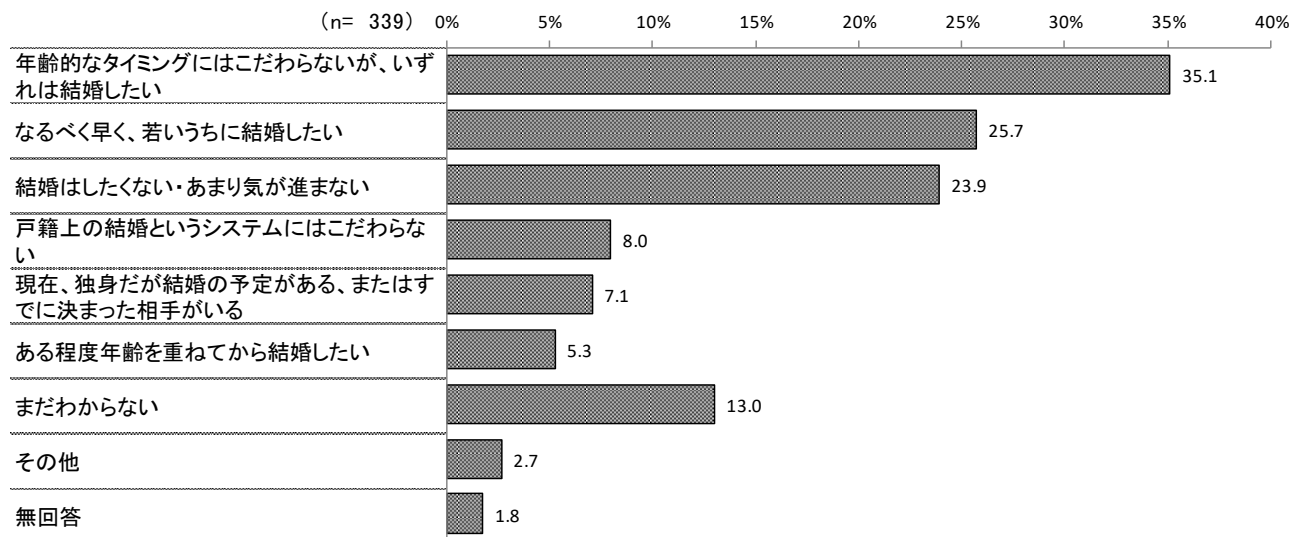
図表 3-2-5-4 現在の婚姻状況



(5) 結婚についての将来像・イメージ

結婚についての将来像・イメージを複数回答で聞いたところ、「年齢的なタイミングにはこだわらないが、いずれは結婚したい」が35.1%と最も高く、次いで「なるべく早く、若いうちに結婚したい」が25.7%、「結婚はしたくない・あまり気が進まない」が23.9%となっています。

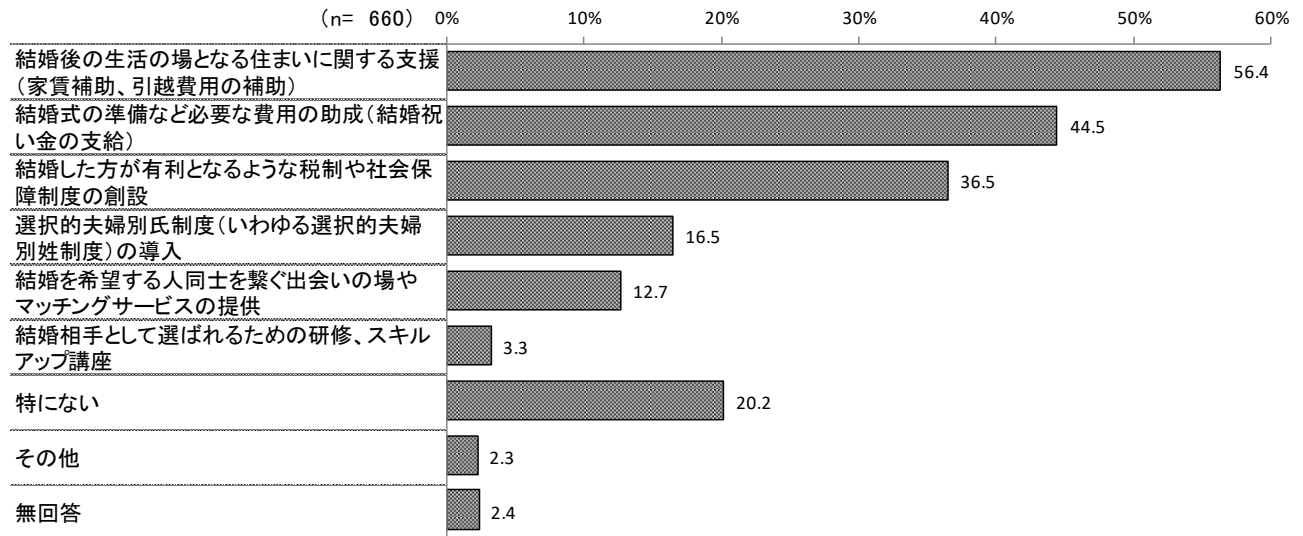
図表 3-2-5-5 結婚についての将来像・イメージ（複数回答）



(6) 結婚を希望する人へ行政に実施してほしい支援等

結婚を希望する人へ行政に実施してほしい支援等を複数回答で聞いたところ、「結婚後の生活の場となる住まいに関する支援（家賃補助、引越費用の補助）」が 56.4%と最も高く、次いで「結婚式の準備など必要な費用の助成（結婚祝い金の支給）」が 44.5%、「結婚した方が有利となるような税制や社会保障制度の創設」が 36.5%となっています。

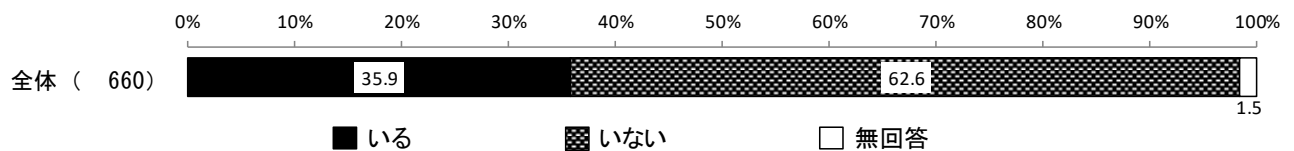
図表 3-2-5-6 結婚を希望する人へ行政に実施してほしい支援等（複数回答）



(7) 子どもの有無

子どもの有無は「いる」が 35.9%、「いない」が 62.6%となっています。

図表 3-2-5-7 子どもの有無

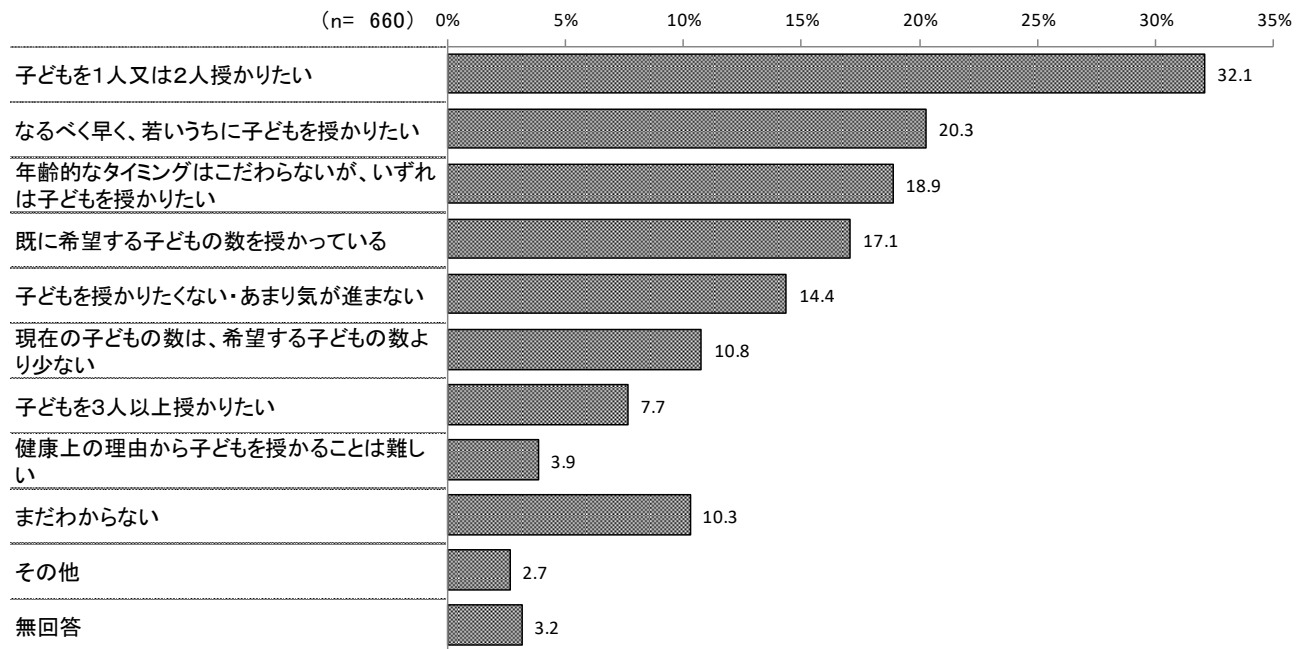


※第1子妊娠中の方は「いる」に含めています。

(8) 子どもについての現況・将来像

子どもについての現況・将来像を複数回答で聞いたところ、「子どもを1人又は2人授かりたい」が32.1%と最も高く、次いで「なるべく早く、若いうちに子どもを授かりたい」が20.3%、「年齢的なタイミングはこだわらないが、いずれは子どもを授かりたい」が18.9%となっています。

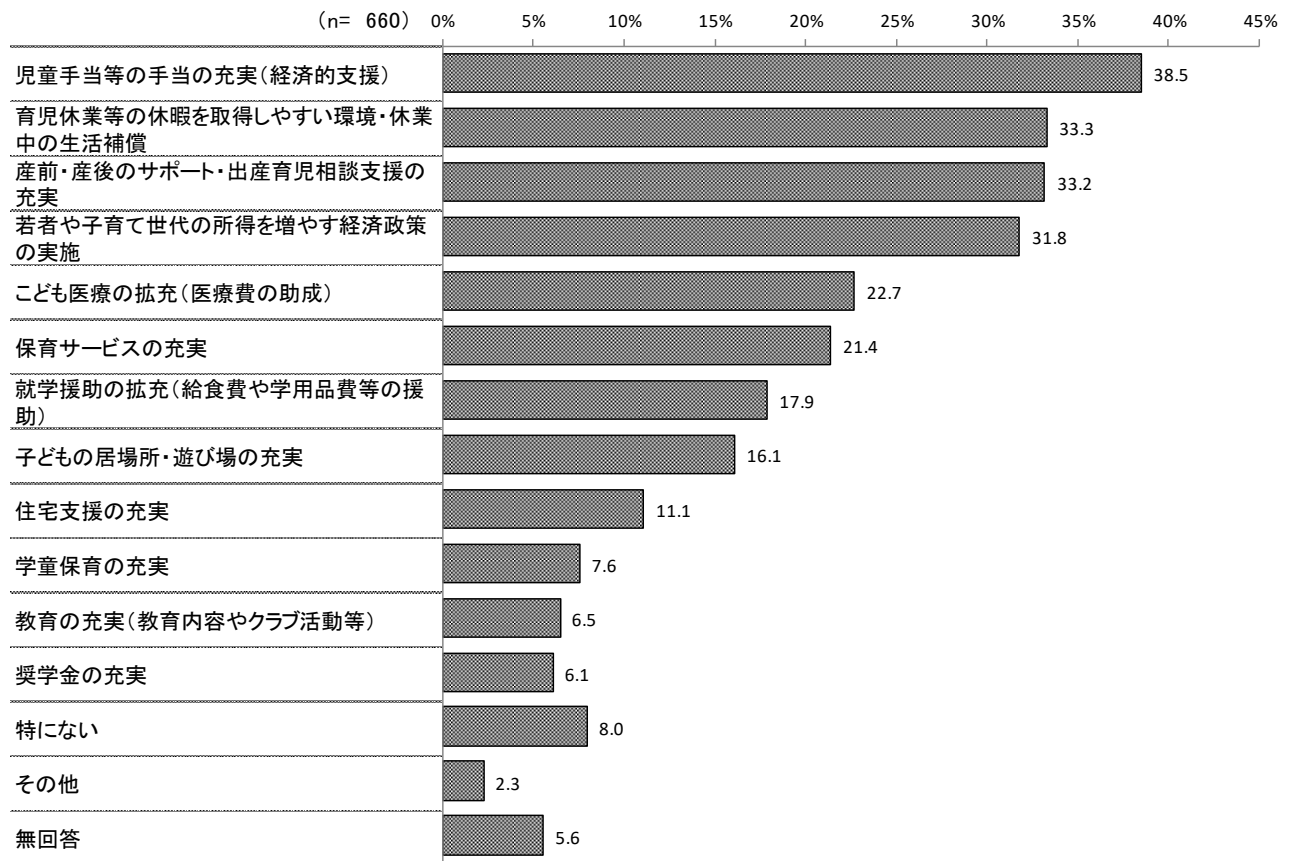
図表 3-2-5-8 子どもについての現況・将来像（複数回答）



(9) 子どもを授かりたいと希望する人へ行政に実施してほしい支援等

子どもを授かりたいと希望する人へ行政に実施してほしい支援等を複数回答で聞いたところ、「児童手当等の手当の充実（経済的支援）」が 38.5%と最も高く、次いで「育児休業等の休暇を取得しやすい環境・休業中の生活補償」が 33.3%、「産前・産後のサポート・出産育児相談支援の充実」が 33.2%、「若者や子育て世代の所得を増やす経済政策の実施」が 31.8%となっています。

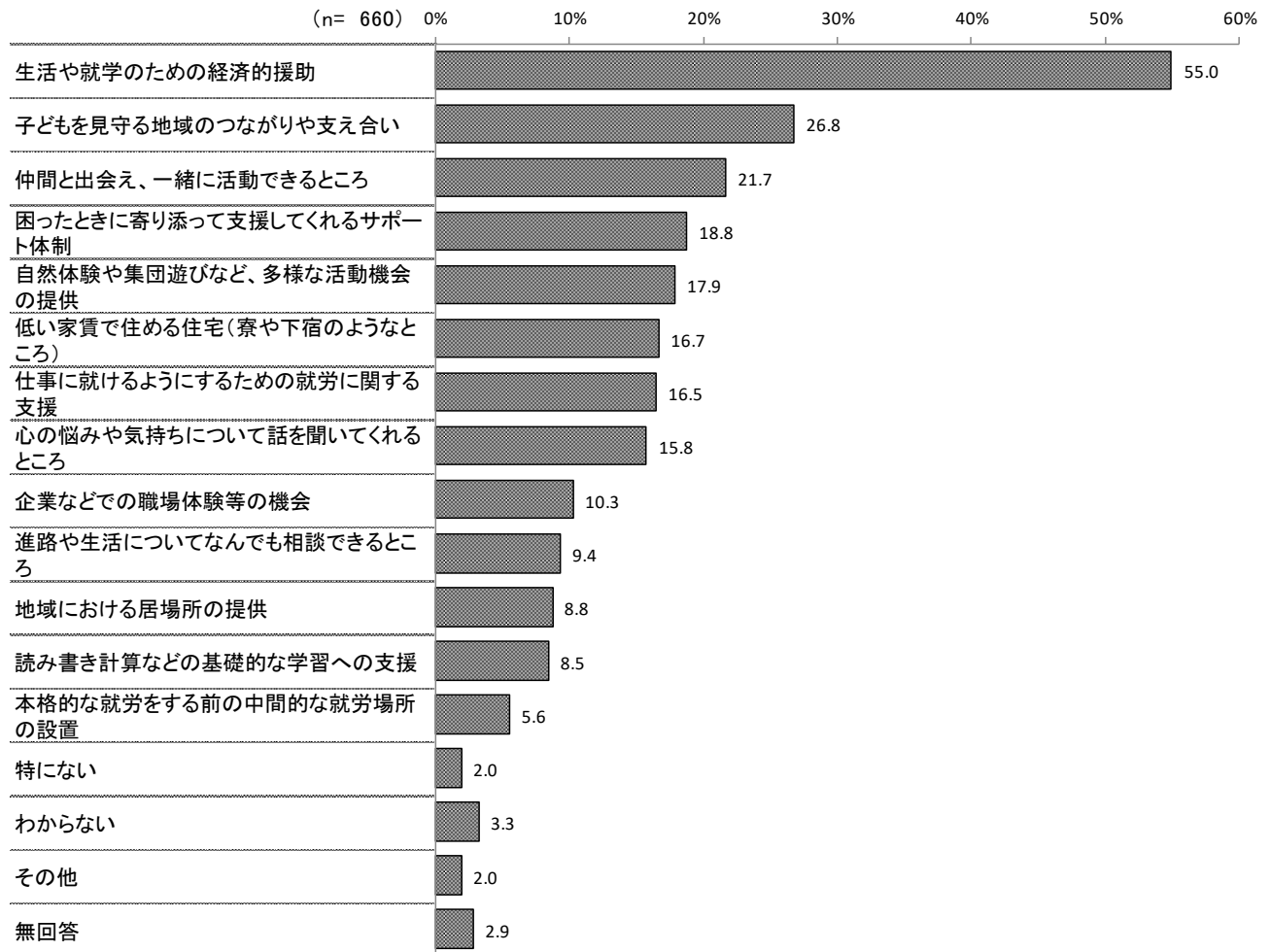
図表 3-2-5-9 子どもを授かりたいと希望する人へ行政に実施してほしい支援等（複数回答）



(10) 子どもや若者に対してあると良いと思う支援

子どもや若者に対してあると良いと思う支援を複数回答で聞いたところ、「生活や就学のための経済的支援」が 55.0%と最も高く、次いで「子どもを見守る地域のつながりや支え合い」が 26.8%、「仲間と出会え、一緒に活動できる場所」が 21.7%となっています。

図表 3-2-5-10 子どもや若者に対してあると良いと思う支援（複数回答）



(11) 市への要望

市への要望について自由記述で聞いたところ、353 人から 670 件のご意見をいただきました。主な意見の内訳は以下のとおりです。

図表 3-2-5-11 市への要望

項目	件数
結婚・出産・子育てに関すること	179 件
物価高対策・減税・給付金に関すること	168 件
交通インフラ整備に関すること	64 件
施設誘致・建設に関すること	55 件
役所手続・行政姿勢に関すること	37 件
斡旋・リソース活用に関すること	33 件
教育・モラル向上に関すること	30 件
観光政策の改善・見直しに関すること	29 件
働き方改善に関すること	28 件
その他	47 件

第3章 調査結果から見えてきた状況と課題

1. 若者の意識と生活に関する調査結果から見えてきた状況と課題

(1) 悩みごとや相談できる人の有無の年代による差

家族のことなどで、何か困っていることや、いやなことが「特にない」と回答した割合は、年代が上がるにつれて低くなる傾向が見られます。また、特に「家にお金がなく、買いたいものを買えないことがある」と回答した割合は、年代が上がるにつれて割合が高くなっています。

また、現在困っていることや悩んでいることでも「家族のこと」や「生活費のこと」と回答した割合は年代が上がるにつれて高くなっており、金銭面での支援を必要とする人が多いと考えられます。

(2) 子ども・若者を対象とした支援機関等の認知度、今後の利用希望の年代による差

子ども・若者を対象とした支援機関等の認知度については、青少年悩みごと相談の10代の回答を除きいずれの支援機関も「知っている」と回答した割合は2割台以下となっています。また、支援機関等の今後の利用希望については、川越しごと支援センターを除きいずれの支援機関も「利用したい」と回答した割合は1割台以下と低くなっています。この結果は、支援機関自体を知らないため、具体的にどのような支援を受けられるのかわからないために生じた可能性がありますので、情報の周知に力を入れていくことで、利用希望や利用実績の向上につながる事が考えられます。

(3) 世帯収入の婚姻の有無による差

年間収入が450万円未満の世帯の割合は結婚していない人の方が高く、450万円以上の世帯の割合は結婚している人の方が高い傾向が見られます。450万円以上の世帯の割合をみると、結婚している人で71.3%、結婚していない人で36.1%と約2倍の差があります。

(4) 自己肯定感の世帯タイプによる差

自己肯定感では13項目すべてにおいて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』の割合は単身世帯より2人以上の世帯の方が高くなっており、特に「苦しい時は誰かに相談したり、助けを求めることができる」「困ったことや苦しいことがあっても自分は何とかすることができると思う」の割合は20ポイント以上単身世帯が低くなっています。

(5) 子どもや若者に対してあると良いと思う支援の子どもの有無による差

子どもや若者に対してあると良いと思う支援について、子どもの有無別に見ると、「子どもを見守る地域のつながりや支え合い」「生活や就学のための経済的援助」では子どもがいる人の方が子どもがいない人を10ポイント以上上回っており、子どもの有無によって必要だと思う支援の内容に違いがあることがわかります。しかし、「生活や就学のための経済的援助」については、子どもがいない人も5割を超えており、多くの人が支援を必要だと感じていることがわかります。